

基本目標9 魅力ある教育文化施設

施策項目28 博物館の振興

北海道教育推進計画 施策項目11 ふるさと教育の充実
施策項目19 地域と学校の連携・協働の推進
施策項目20 生涯学習・社会教育の振興
施策項目22 芸術文化活動の推進

1 現状と課題

十勝地方における数少ない総合博物館機能を持つ学芸員配置館として、町民のみならず幅広い地域の人々から、「地域を知る」場としての機能の充実が期待されています。

一方で、展示更新やデジタル化、情報発信など、基本的な機能面で十分な役割を果たせていない現状があります。

また、観光情報発信の役割が期待されていることから、今後は地域の自然や歴史を案内できるガイドの育成やそのための教材開発など、町を訪れる様々な人への情報アクセスの機能を充実していく必要があります。

登録博物館としては人的・組織的な体制の整備が十分とは言えず、現状の維持や発展に懸念があるのが現状です。運営体制の見直しを図るとともに、これまで以上に博物館間での連携を強化していくことに加え、大学、学校、民間事業者等との新たな連携の構築を図っていくことが必要です。

2 施策の概要

博物館法に基づく博物館としての基本機能の充実を図り、社会教育機関かつ文化施設として、地域の学術情報の集積発信拠点と観光文化拠点としての両面から、事業を推進していきます。

町内外の様々な機関や団体と連携し、自然環境や歴史民俗文化の保全と活用を図ります。

北海道文化振興指針や北海道生物多様性保全計画、アイヌ施策推進法、デジタル形式を含む記録遺産の保護及びアクセスに関する勧告(ユネスコ2015指針)等、博物館に関係する様々な指針に基づき、適切な博物館運営を確立していきます。

3 施策の主な取組

(1) 資料の収集・保存・情報発信

浦幌を中心とする白糠丘陵一帯の東十勝から西釧路地域に関する資料を収集・保存するとともに、適切な保存環境の構築と、資料情報のインターネットを用いた発信を強化し、アクセス権の保障と拡大を図ります。博物館間の連携により、資料の適切な収集方法に関する相互協力や、文化財レスキューなどの災害時協力体制の構築に積極的に関わり、学芸技術の研鑽に努めます。

(2) 調査・研究の推進と学術情報の集積

収蔵資料はもとより、フィールドとなる地域の自然環境や歴史民俗、先住民族の歴史や文化を明らかにし、それらを保全し後世へ残し伝えるための調査研究を実施するとともに、来町する研究者の活動を支援し、図書館とも連携して、地域に関する学術文化情報の集積を図ります。

また、地域を対象とした新たな学術研究テーマを提案し、新規の研究者の誘致と、博物館紀要を活用した学術情報の集積を図ります。

(3) 展示・教育を通じた「浦幌を知る」場の創出

浦幌に関する基礎的な情報を網羅した常設展示の充実と、テーマ毎に収蔵資料を公開する企画展や各種講座・巡検の開催、博学連携や公民館連携などでの講師派遣、狭義の教育事業にとどまらない幅広い機会を通じての教育事業の計画的な実施により、住民だけでなく、あらゆる人に「浦幌を知る」機会を創出します。

(4) 文化芸術基本法に基づく文化観光施設機能の充実

博物館が文化芸術基本法に基づく文化施設として新たな位置付けを持ったことに鑑み、博物館を主体的な「学び」の場であるだけでなく、学術文化に触れるきっかけとなる場、観光を通じて広範な人々に地域を知ってもらうきっかけとなる拠点施設へと発展させるための事業や情報発信を充実します。

(5) 関連機関との連携の強化

学校や社会教育施設、地域行政に限らず、博物館、大学、学術団体、文化団体、アイヌ協会やラポロアイヌネイション、行政機関、民間事業者等と連携し、博物館事業の充実を図っていきます。十勝うらほろ楽舎など、地域で広義の教育事業を展開している事業者や、東十勝ロングトレイル協議会など、観光創出事業を推進している事業者と連携を図り、持続的で発展的な新規事業の開拓を推進します。